

会議録

会議の名称	第2回西東京市放課後子供教室あり方検討委員会
開催日時	令和7年6月30日（月）午後1時30分から午後3時まで
開催場所	イングビル2階第2会議室
出席者	委員：川原委員、伊藤委員、新濱委員、河野委員、渡辺委員、飯海委員、小松委員、門倉委員、福所委員、坂本委員 事務局：早川教育部特命担当部長、大内社会教育課長、鬼頭社会教育係長、野田主事、上加世田主事
議題	(1) 西東京市放課後子供教室のあり方について (2) アンケートについて (3) その他
配付資料	資料 西東京市放課後子供教室のあり方について 別紙1 『西東京市 子育て支援ニーズ調査結果報告書 令和6年3月』抜粋 別紙2-1 アンケート「西東京市の放課後子供教室について」（案） 別紙2-2 案内「西東京市放課後子供教室」
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

議題（1）西東京市放課後子供教室のあり方について

- 座長 : 前回会議では現状を把握した上で意見交換をしたが、今回は委員の皆様のそれぞれの立場で本市の放課後子供教室の現状についての所見や、望ましい姿について改めて議論をしていただきたい。今回の会議で使用する資料を事務局より説明願う。
- 事務局より、資料「西東京市放課後子供教室あり方について」に沿って説明。
- 座長 : 放課後の子どもの過ごし方や居場所において、自治体毎によって多様な状況であることが伺えた。他自治体事例や検討資料を踏まえて、皆様から意見を求めたい。
- 委員 : 資料で説明のあった子育て調査はいつの調査なのか。
- 事務局 : 平成30年度と令和5年度に実施したものである。
- 委員 : 平成30年度と令和5年度では、コロナの影響を受けて共働き層が増えていると感じており、家を空けている時間帯は安心を求めて学童クラブに入所されていると思われる。学童クラブ職員の立場からすると、校庭開放や体育館開放などの放課後子供教室があると学童クラブ内の過密化が防げる。保護者や子どもにとっても様々な選択肢があると過ごしやすいのではないかと思う。

- 委員 : 放課後における子どもの過ごし方に選択肢の幅があるのが良いと思う。

- 副座長 : 保護者会や面談期間中等、ニーズがある時の校庭開放や学習機会提供プログラムの利用率が高い。

- 委員 : 前年までは区部に所属していたが、民間事業者が運営していた。地域の方のみで運営しているケースは初めてである。平日は5日間開放しており、某区では土曜日も開催していた。内容としては、担任の先生から出された宿題を30分ほど取り掛かった後、校庭開放に参加する流れであった。

- 委員 : 高学年は学習機会提供プログラムの利用率と土日における校庭開放の利用率は少ない。平日5日間の開放ができれば良いのではないかと思う。また、責任があると動きづらいつと感じており、事業者には雇われている方が責任者として参画して関わってくれたらより良い。

- 委員 : 天候によっては中止となる場合もあり、従事時間が1時間程度だと人を募集するのは難しい。学習機会提供プログラムについて、その場所にいるだけの子もおり、親が半強制的に参加させているように見受けられる時がある。

- 委員 : 上記委員の意見に同情。学習機会提供プログラム時に申込みしていても、参加しないで帰ってしまう子もいる。

- 委員 : 放課後子供教室と学童クラブの双方の充実が財政的に難しいと思う。1年生から4年生は学童クラブ、5・6年生は放課後子供教室というように、役割分担ができれば良いのではないか。

- 委員 : 放課後子供教室について熱心に協力して下さる学校施設開放管理者は良いが、そこまで熱意の無い学校施設開放運営協議会にも平準化させていくのは現状難しいのではないか。

- 委員 : 学習機会提供プログラムに参加すると聞いていたが、当日になって学童クラブに来てしまう子もいた。校庭・体育館開放、自主学習は良いが、学習機会提供プログラムにおいては、アンケート調査で子どもの意思を聞く場面があっても良いのではないか。

- 副座長 : 他の委員と同様、学習機会提供プログラムの内容によっては、親の意思で参加していると感じる。習い事がある子にとっては、1度帰宅しないとすると時間も限られるので参加は難しい。

- 委員 : 学校から直接児童館に行ける、ランドセル来館制度はあるか。例えば、3・4年生におけるランドセル来館制度はどうか。

- 委員 : ランドセル来館制度はない。
- 委員 : 児童センター・児童館が老朽化している。児童センター・児童館こそ充実させていただきたい。学童と併設しているところは、一般児童が遊べない。安定した実施と人の確保も含めて魅力度アップも進めていただきたい。
- 座長 : 様々なご意見をいただき感謝する。

議題（２） アンケートについて

- 事務局より、資料「西東京市放課後子供教室あり方について」の４ページ目と別紙２-１、別紙２-２に沿って説明。
- 座長 : 学童クラブに通所する児童・保護者に対して、本市の放課後子供教室事業ないし放課後の過ごし方についてどう考えているかの現状と希望の声を、児童青少年課に協力を得てロゴフォームを通して調査する案が事務局より出ている。質問の内容や皆様の意見をいただきたい。
- 委員 : 放課後子供教室と地域生涯学習事業との混同が懸念である。保護者も子どもも区別がついていないと感じる。
- 座長 : アンケートの説明文に放課後子供教室について追記する方向で良いか。
- 副座長 : 別紙２を確認すると放課後子供教室事業を理解できるが、この事業案内チラシは市HPにて確認できるか。
- 事務局 : 今回のアンケート調査のために作成したもので、市HPには掲載していない。
- 副座長 : URLのリンクを作成し、アンケート調査時に確認できるようであればなお良いのではないか。
- 事務局 : アンケート依頼時に別紙２の資料を参考資料として添付する予定である。その上で、地域生涯学習事業と区別して回答いただけるように検討する。
- 委員 : 夏学童のみ利用している方もアンケートの対象となるか。

- 事務局 : 一人でも多くの回答が得られれば良いと思っているため、児童青少年課と協力して対応できるようにしたい。
- 委員 : 夏季休暇や長期休暇のみ学童を利用している方もいるので、是非その方々の回答もいただくと様々な意見をいただけたらと思う。
- 副座長 : アンケート問2番について、「放課後子供教室を知っていますか」、よりも、「知っていましたか」へ変更すると、別紙の資料を読んで初めて放課後子供教室を知ったかどうかを把握できるのではないかと。問6番について、利用しない理由の選択肢で「遠いから利用しない」という項目と、「毎日実施していないから」という項目の追加も必要だと感じる。
- 座長 : 本アンケートにおいて、子どものニーズをより回答に反映できないかと思う。保護者のニーズと子どものニーズの違いも大いにあると思うが、他に意見はありますか。
- 委員 : 問7は保護者目線で聞いているが、子ども目線でも回答を促すのはどうか。校庭開放・体育館開放だけでなく、どんな学習機会提供プログラムを開催しているかの例を示しながら、学習機会提供プログラムについても回答してもらうのも有効だと感じる。
- 座長 : 質問文の先頭に保護者の方へ投げかけるところと子どもへ投げかけるところを分けても良いのではないかと。自由意見について、たくさん意見を引き出せる文言はないか。
- 事務局 : 事務局が得たい情報以外に、保護者の方と子どもたちがどんな問題点を抱えているのかを自由に引き出たく、この文言としている。
- 座長 : 現状はこの文言とする。アンケート全体を修正後に再度検討したい。
- 委員 : 設問全体を通して、「放課後子供教室」を「校庭開放・体育館開放などの放課後子供教室」にしてはどうか。学習機会提供プログラムは全校で盛んではない。アンケートの最後に学習機会提供プログラムについて伺うのはどうか。

- 座長 : 本日の議論において、特に平日における放課後子供教室を安定的に開催すること、放課後子供教室を理解した上でアンケートに回答してほしい点、子ども自身のニーズも把握する形でアンケートを作成する方向でまとめたい。

議題（3）その他

- 事務局 : アンケート内容は再精査を行った上で、委員の皆様へ共有させていただく。再度ご意見をいただいてからアンケートを発信させていただく。9月以降に他自治体の視察を考えており、情報が整い次第共有させていただく。本委員会の開催日程について今後のスケジュール確認を願う。次回以降、時間は全て午前10時00分から、場所は田無庁舎102会議室での開催となる。令和7年10月に中間報告、令和8年2月に方針策定を目指して進めていく。

次回会議

日時 令和7年8月19日（火）午前10時00分から午前11時30分

場所 田無庁舎102会議室